

刈谷遺産

K A R I Y A H E R I T A G E

歴史と
ものづくりを
たどる **道**

キーワードは三河人の心意気



トヨタ創業期試作工場[愛知製鋼(株)刈谷工場内]

公共施設連絡バス(かりまる)

無料バスをご利用
いただけます。

【亀城公園へのアクセス】
刈谷市公共施設連絡バス「東刈谷・
逢妻線」で「刈谷市体育館」下車

※JR東海道本線「逢妻」駅より上記
バスを利用する場合は「東刈谷駅北
口行」にご乗車ください。
(「刈谷市体育館」まで約5分)

※名鉄三河線「刈谷市」駅より上記
バスを利用する場合は「逢妻駅南口
行」にご乗車ください。
(「刈谷市体育館」まで約10分)

バス停の位置や時刻表はこちら



(QRコードは、デンソーウェーブの登録商標です)

レンタサイクル

刈谷駅前観光案内所で
電動アシスト付き
自転車を無料で
貸し出しています。

保証金1,000円をお預かりします。
問題がなければ利用後に返却します。



貸出窓口／刈谷駅前観光案内所(産業振興センター1階)

☎ 0566-45-5833

貸出時間／10時から18時

貸出対象／小学生以上で自転車の乗用に安全上支障がない方

※その他詳細についてはお問い合わせください。

「刈谷遺産 歴史とものづくりをたどる道」

刈谷市役所市民活動部文化観光課

〒448-8501 刈谷市東陽町1丁目1番地

☎ 0566-62-1037



「刈谷遺産」では、真面目で律儀・義理人情に厚い・団結力が強いといった「三河人の心意気」をキーワードに、戦国から近代までの刈谷の歴史をたどります。

歴史街道
History Avenue

第1章 江戸幕府の母と鬼日向	3
第2章 己の信念を貫いた人々	5
歴史街道エリアマップ	7

ものづくり街道
Manufacturing Avenue

第3章 次世代への布石	9
第4章 日本有数の産業都市へ	11
ものづくり街道エリアマップ	13

刈谷城ジオラマ〔歴史博物館で展示〕



第一章 江戸幕府の母と鬼日向

刈谷のまちの発展は、刈谷城が築かれたことにより幕を開けます。この時代、刈谷では個性あふれる人物が活躍し、徳川家康の天下統一を支えていました。

戦国時代、刈谷周辺は水野家によって治められていました。周囲を織田家や松平家などの勢力に囲まれ、争いが絶えませんでした。水野家の当主 忠政は、城を築き、敵対勢力に娘を嫁がせるなど、生き残る道を模索しました。

娘の於大は、岡崎の松平家に嫁ぎ、徳川家康の母となりました。戦乱の世に翻弄され、離縁し刈谷に帰されることとなります。松平の家臣は最後の務めとして、於大を刈谷城まで送り届けようと思いますが、於大はこれを断り、城の手前で岡崎に帰るよう伝えます。これは、城で待つ兄・信元が彼らを殺してしまうと考え、家臣を守るためでした。こうした於大の深い心遣いは、後の水野家や家康の生涯にも大きな影響を与えたと言われています。

於大の甥であり、家康の従兄弟にあたる水野勝成は、戦国の動乱を抑える重要な役割を果たします。勝成は、信長や家康に仕え、数々の戦で戦果を挙げた豪傑である一方、小牧・長久手の戦いでは、顔の腫物が気になり兜をかぶらずに戦に出陣するなど破天荒さでもその名を轟かせました。

また、父の家臣を切り殺したことで父と絶縁し放浪の旅に出ますが、豊臣秀吉による天下統一を助けるなどの活躍ぶりを見せます。

その後、家康のはからいによって父との勘当が解かれ、刈谷藩の初代藩主となると、関ヶ原の戦いや大坂の陣などで戦果を挙げ、江戸幕府を支えています。

勝成の妻は武勇のみではありませんでした。最後に転封した福山では城と城下町を新たに建設し、福山のまちを作った偉人として現在も称えられています。刈谷でも城下町の建設に携わったと考えられ、刈谷のまちの原点を築きました。



椎の木屋敷跡
〔於大が暮らした場所〕



亀城公園〔刈谷城址〕

関ヶ原の戦い※2

慶長5年(1600)家康の東軍と石田三成の西軍に分かれて行われた秀吉の後継者をめぐる争い。以後、家康は慶長8年(1603)には征夷大将軍に任ぜられた。

小牧・長久手の戦い※1

天正12年(1584)に起きた家康と羽柴(豊臣)秀吉による戦い。家康勝利に終わったが、その後の和平交渉の結果、秀吉の天下統一に繋がる戦いとなった。水野勝成は家康方として参戦した。

転封※4

大名の領地を他に移すこと。江戸時代、大坂より西方面には関ヶ原の戦いで家康と敵対した大名が数多く残されていた。そのため、要衝に譜代大名(関ヶ原の戦い以前に徳川氏に臣従した者)を転封し、監視役を命じた。

大坂の陣※3

徳川家康・秀忠親子と豊臣家との争い。慶長19年(1614)の大坂冬の陣、翌年の大坂夏の陣から成る。勝成は両陣に出陣し、夏の陣では、家康軍の先鋒を任せられ、豊臣方の有力武将を打ち破る活躍をした。



水野勝成



於大

尊王攘夷 ※2

天皇を敬い外国を打ち払うべきとする思想のこと。幕府の大老である井伊直弼が暗殺されるなど、これまででは考えられないような事件が起こった。



松本奎堂



十念寺 [旧刈谷藩主土井家廟所内の三家老墓所並びに松本奎堂墓所がある]

松本奎堂 ※3

刈谷藩士に生まれ、18歳の時に槍の稽古で左眼の視力を失う。昌平坂学問所では舎長となるほど優秀だったが、尊王攘夷を決意し脱藩。名古屋や大坂で私塾を開いたのち、天誅組では三総裁の一人として挙兵。

第二章 己の信念を貫いた人々

幕末の日本を変えようとした人物が刈谷で生まれたことをご存知でしょうか。彼らは天誅組の一員として、尊王攘夷を貫き、幕府を相手に最後まで戦い抜きました。一方、刈谷藩でも、すれ違いから悲劇が起きてしまいます。

幕末の動乱の中、刈谷藩出身の松本奎堂、※3 穴戸弥四郎※4らは、幕府への不満から尊王攘夷の思想を持つようになり、倒幕へと向かっていきました。

彼らが参加した天誅組は、倒幕への道を進みましたが、政変により一夜にして賊軍扱いとなり、幕府に追われる身となってしまいます。

そのような状況でも援軍を求め、一時は千人を超える大軍となりましたが、幕府軍の攻撃により、天誅組は敗走せざるを得ませんでした。そして、多くの兵力を失い現在の奈良県東吉野村で壊滅したのです。

彼らは外国の脅威を前にひるむことなく、新しい時代への思いを貫き通し、最後まで尊王攘夷を叫び続けました。彼らの精神は他の幕末の志士たちに引き継がれ、4年後に倒幕が成し遂げられました。

「旧幕府派か、新政府派か。」
江戸幕府が幕を閉じた後も、旧幕府派と新政府派との争いは続き、刈谷藩の中でもどちらに付くか、非常に揺れ動いていました。そして、決断を迫られたある日、ついに新政府派に付くことを決断します。

ところが、既に夜の10時半。家老たちは、こんな夜更けに部下を集めると余計な混乱を招くと考え、翌朝にこの決断を公表することを決めます。一方、その事実を知らない新政府派の若い武士たちは、これまでの徳川家への恩義から、刈谷藩は旧幕府派に付くと考えていました。そのため、強硬手段に出ることを決心し、まさに同日、大手門外で待ち伏せし、城から出てきた3人の家老を切り殺してしまつたのです。

あと1日、藩の決断が早いか、若い武士たちの行動が遅ければこの三家老の悲劇を避けることができたでしょう。それぞれの思いは錯綜し、明治維新を迎えます。

明治維新後、新政府派に付いた刈谷藩は徳川家を支えてきた藩として新政府から冷遇を受けますが、人々の心意気を原動力にこの逆境の中でも発展していくこととなります。

天誅組 ※1

文久3年(1863)8月、武力による倒幕と尊王攘夷をめざして結成された維新の魁と言われる集団のこと。刈谷藩からは松本奎堂、穴戸弥四郎らが参加している。



穴戸弥四郎



松秀寺 [穴戸弥四郎墓所がある]

穴戸弥四郎 ※4

親友である松本奎堂とともに参加した天誅組では合図係や、決死隊の副隊長を務めた。最後は主将を脱出させるために戦死した。

歴史街道エリアマップ



1 歴史博物館

刈谷の歴史を見るだけでなく、体験して学ぶことができるミュージアムです。

☎ 0566-63-6100
開館時間 / 9時から17時まで
休館日 / 月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始など



2 十朋亭

刈谷士族会の集いの場として亀城公園内に建てられました。現在は市民の憩いの場として利用されています。

☎ 0566-21-3790
開館時間 / 9時から21時まで
休館日 / 年末年始



3 刈谷城址

刈谷城の本丸部分が建てられていた場所で、現在は亀城公園として整備されています。



4 大手門跡

大手門とは、城の表正門にあたり、三家老の悲劇はこの門を出たところで起こったと言われています。



5 椎の木屋敷跡

於大が松平家から離縁された後に暮らした場所で、現在は公園になっています。



6 松本奎堂生誕地碑

松本奎堂の生誕の地(旧屋敷跡)に刈谷士族会によって碑が建てられました。



7 穴戸弥四郎生誕地碑

穴戸弥四郎の生家があった場所で、現在は石碑が建てられています。



第三章 次世代への布石

明治維新の大混乱に陥った刈谷藩は、立て直しに向け産業の発展へ舵を切ります。その土台として必要不可欠な交通網の整備や人材育成にも力を入れ、現代の産業都市としての礎を築いていきます。

明治時代に入ると、武士は、自分を象徴する特権を失い、藩での仕事も失いました。そのため、刈谷は失業者で溢れかえり、混乱を極めていました。

刈谷を離れていた大野定は、混乱する藩の立て直しを任せられ、弟の大野介蔵らと奮闘します。

定は、刈谷付近の土がレンガの製造に適しており、レンガ工場の建設計画が浮上した際には、貧しい暮らしをする旧武士たちを採用することを条件に自らの土地を工場用地として提供しました。

また、刈谷の歴史の中でも大きなターニングポイントとなった、刈谷駅の誘致に成功します。

介蔵らは、まちの発展のために駅が必要であると考え、神戸の鉄道事務所にはたらきかけるなど誘致運動を起こします。町民もこれに賛同し、鉄道用地の交渉を自ら行うなど地域の発展のために尽くしました。その結果、介蔵らの熱意が認められ刈谷駅の誘致に成功したのです。

この刈谷駅の開業や、当時盛んであった鉄道建設と洋風建築で軌道に乗ったレンガ事業によって刈谷の産業は発展していきます。

さらに彼らは人材育成にも目を向けます。県立第八中学校(現刈谷高校)の誘致を成功させると、刈谷高等女学校(現刈谷北高校)を独自で設立しました。当時、男女の高等教育機関を備えたまちは珍しく、教育の面からも産業発展を支えました。

大野家をはじめとする町民は常に刈谷の発展への努力を惜しみませんでした。この時代に作り上げた交通網と教育機関は後の成功の力ギとなります。



大正時代の刈谷駅模型【歴史博物館で展示】



刈谷高校正門



おおのかいぞう ※2
大野介蔵

大野定の弟。東洋組刈谷土族就産所、三河鉄道を設立し、近代的な産業発展を押し進めるとともに、高等教育機関の創設に尽力し教育の普及に努めた。



おおのさだめ ※1
大野定

刈谷藩士として生まれ、江戸時代は家老、明治時代に入ると大参事(現在でいうところの副知事)や刈谷村戸長、初代県議会議員などを務め、明治維新後の混乱に陥った刈谷のために奔走した。

第四章 日本有数の産業都市へ



静かな城下町であった刈谷は、刈谷駅の誘致以降、着々と産業都市への下準備を進めます。大正末期、飛躍的な発展へとつながる出来事が起きますが、きっかけは偶然によるものでした。

トヨタ創業期試作工場[愛知製鋼(株)刈谷工場内]

とよださきち^{※1}
産業革命が進む大正時代初頭、豊田佐吉は、将来の発展に向けて、長年改良に取り組んでいた自動織機じどうしょつきの試験工場の用地を探していました。

ある日、刈谷駅で列車を待つ旧豊田紡織株式会社豊田紡織株式会社の社員に偶然居合わせた町民が、工場を作るなら刈谷は交通や電話通信面で便利だと話を持ち掛けたという逸話が残っています。これをきっかけに、駅の誘致と同じくまちをあげて行った熱心な誘致活動が実を結び、当初の候補地から一転して刈谷に試験工場が建設されました。そして、この工場豊田紡織株式会社で世界の繊維産業の図式を変えたと言われる^{※2}「G型自動織機」が産声をあげることとなります。

これ以降も佐吉は、G型自動織機を製造・販売する株式会社豊田自動織機製作所をはじめ、新しい工場が必要になると、まずは刈谷に相談を持ち掛けました。大野一造おのいちぞう^{※3}をはじめとする町民たちの心意気が、刈谷とトヨタの強い信頼関係を築き上げたのです。

相次ぐ工場の建設により、働く人を呼び込み、^{とよだきいちろう^{※4}} まちは発展を遂げていきます。豊田喜一郎は、刈谷の地でトヨタ初の国産乗用車「A1型試作乗用車」^{※5}を誕生させます。様々な困難を乗り越えての完成の裏には、何度失敗しても、一丸となって挑戦する社員たちの姿があったのではないのでしょうか。

世界の自動車産業をリードするトヨタをはじめ、この地域がものづくりで成功できたのは三河人の心意気があってこそです。

かつて、刈谷の繁栄のために戦乱の世を生きた三河人の心意気は脈々と現代にも受け継がれているのです。

とよださきち^{※1}
豊田佐吉

現在のトヨタグループの創始者。世界最高性能といわれる「G型自動織機（無停止杼換式豊田自動織機）」を開発し世界の繊維産業の発展に貢献した。トヨタグループの礎は、佐吉の研究と創造の精神を基盤に築かれている。

G型自動織機むていしひがえしきとよだじどうしょつき^{※2}
（無停止杼換式豊田自動織機）

豊田佐吉が大正13年（1924）に発明、完成した自動織機。高速運転中にスピードを落とさずに杼（シャトル）を交換して、よこ糸を自動的に補給できるようになり生産性が飛躍的に向上した。

おおのいちぞう^{※3}
大野一造

大野介蔵の長男。旧豊田紡織株式会社の試験工場誘致に尽力し、刈谷の工業都市の端緒を開いた。実業家として活躍する傍ら、政界にも進出し、刈谷町会議員を皮切りに、愛知県議員、刈谷町長、衆議院議員を務めた。

とよだきいちろう^{※4}
豊田喜一郎

豊田佐吉の長男で、トヨタ自動車工業株式会社（現トヨタ自動車株式会社）の創業者。車社会の到来を予感し、自動車の試作を開始した。

A1型試作乗用車^{※5}

豊田喜一郎が初めて作った国産乗用車。改良を重ねて、後のA1型乗用車の量産へと導いた、歴史的意義のある試作車である。



イラストはAA型乗用車



8 大野定碑

明治維新後の混乱期に刈谷の発展に貢献したことから、大正5年に記念碑が建てられました。



9 豊田佐吉胸像

旧豊田紡織株式会社や株式会社豊田自動織機製作所を刈谷に設立し、刈谷の工業化の基礎を築いたことから記念碑が建てられました。



10 郷土資料館

西洋建築のバロック方式の流れを汲む外観が特徴的で、国の登録文化財になっています。刈谷の民俗資料などを展示しています。

☎ 0566-23-1488
開館時間／9時から17時
休館日／月曜日(月曜が祝日の場合は翌日)、祝日の翌日、年末年始など

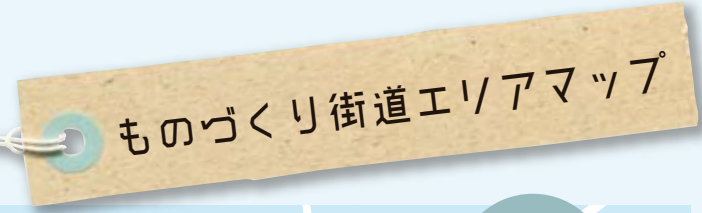
11 刈谷高校正門

大正12年に愛知県刈谷中学校正門として建てられ、平成29年に国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。

12 トヨタ創業期試作工場 [愛知製鋼(株)刈谷工場内]

トヨタ初の国産乗用車誕生の地を見学することができます。見学はホームページより事前申し込みが必要です。

☎ 0566-29-4151
ホームページ URL: <https://k.tcomit.org/>
開館時間／10時から17時
休館日／土曜・日曜日および会社休日



ほかにも
体験施設が
充実



アイシンコムセンター

アイシングループの展示館。迫力のプロジェクションマッピングシアターでは、クルマの楽しさを全身で体感できます。

刈谷市朝日町2丁目1番地
☎ 0566-24-8600
開館時間／9時から17時
休館日／土曜・日曜日および会社休日
駐車場／あり



デンソーギャラリー

デンソーの製品の歴史や最新技術、将来の技術をわかりやすく紹介するほか、多くの体験型展示を取り入れています。

刈谷市昭和町1丁目1番地
株式会社デンソー本社 5号館3階
☎ 0566-24-8600
開館時間／9時半から17時
休館日／土曜・日曜日および会社休日(原則第1土曜日は開館)
駐車場／あり



石田退三旧宅・展示室

トヨタグループを再建し「トヨタの大番頭」と呼ばれた石田退三が暮らした家とその生涯をたどる展示を見学できます。見学はメールにて事前申し込みが必要です。

メール／info@ishidafound.or.jp